



未来の デジタル社会の デザイン

情報流通行政局
情報通信作品振興課長

吉田 弘毅 YOSHIDA Koki

平成 14年 4月	総務省採用
	郵政企画管理局総務課
平成 14年 8月	同 総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課
平成 16年 7月	同 大臣官房秘書課
平成 17年 8月	同 総合通信基盤局国際部国際経済課通商経済係長
平成 19年 7月	同 米国留学(カリフォルニア大学サンディエゴ校)
平成 21年 7月	同 情報流通行政局情報通信作品振興課課長補佐
平成 23年 7月	同 内閣官房情報セキュリティセンター参事官補佐
平成 25年 4月	同 外務省東南アジア諸国連合日本政府代表部一等書記官
平成 28年 6月	同 総務省情報通信国際戦略局情報通信政策課課長補佐
平成 29年 7月	同 情報流通行政局総務課統括補佐
令和 元年 7月	同 情報流通行政局放送コンテンツ海外流通推進室長
令和 2年 7月	同 愛知県経済産業局情報通信(ICT)政策推進監
令和 4年 6月	同 内閣官房新しい資本主義実現本部事務局企画官
令和 6年 7月	同 総務省情報流通行政局地域通信振興課デジタル経済推進室長
令和 6年 9月	同 情報流通行政局情報流通振興課企画官
令和 7年 7月	同 情報流通行政局情報通信作品振興課長



留学時代の同級生と再会(旅行した国は入省後だけでも30か国以上)



ミャンマー人の昔の仕事仲間と再会

若手職員の声



情報流通行政局
情報通信作品振興課

石田 和也
(令和6年入省)

情報通信作品振興課では、動画配信サービスの拡大や収益構造の変化など、放送コンテンツを取り巻く環境が変化する中で、製作力強化や海外展開の促進に向けた取組を進めています。放送・配信事業者から金融機関、商社まで幅広い業界の方から話を聞く機会があり、視野が広がります。

課内では日々議論が交わされ、若手職員の意見も取り入れられる風通しの良い環境です。吉田課長は一言で課の雰囲気明るくし、平日夜はジムに行くなど、仕事とプライベートのメリハリをつけた働き方を実践されています。こうした環境の中、日々の業務に全力で取り組んでいます。

すこし先の未来

進路に悩んだ20代の頃には「10年先も変わり続ける分野で前向きな仕事ばかりして過ごしたい」と考えていました。20年以上経った今、前向きに動いています。多くのドラマや様々な動画はいつでもどこでも見られるなど社会は便利になり、日本のアニメやドラマは世界で人気です。一方、偽情報などのネット上の情報が社会に大きな影響を与えたり、日本のドラマより海外ドラマの存在感が大きくなり、課題も増えています。情報通信・デジタル技術が社会を急速に変える中で、これから起こる課題にいち早く気づき、改善すべき点と表現の自由などの

守るべき価値の双方を考え、デジタル社会をデザインするのが仕事です。ネット上の偽情報を減らすために偽情報に付く広告に着目したデジタル広告に関するルールを策定した際や国内外の企業と連携した意識啓発キャンペーンを立ち上げた際には、「いまこれを行う必要性」を関係者に理解してもらうことに苦労しながら、ゼロから仕組みを考える楽しさを感じました。東南アジアのサイバーセキュリティ人材の育成センターを自分で発案し立ち上げた際には、早いスピードで進めすぎて日本を含む各国の代表が出席して最終合意を得るはずの国際会議で他の参加国の合意が得られず、ラオスの会議場で顔面蒼白になったことは忘れられません。しかし、自分が携わった仕組みが社会に役立っている様子を

見たり「少し早いと思ったが、あの時に作ってよかった」と言ってもらったりしたときの達成感や、ゼロから考えるワクワク感は何物にも代えがたいと感じています。

仕事の手触り

総務省の業務は、コンテンツやSNS、携帯電話に関する政策から、統計や自治体の業務まで多様ですが、生活に身近という共通点があり、自分の仕事で自分自身の生活を良くしている「手触り」を感じられることも魅力です。入省2年目に上司と一緒に携帯電話の契約・更新時の説明義務の制度に携わりました。昨年、我が子のスマホデビューの契約時に

その制度に基づく説明を携帯ショップで受け、自分が関わった制度が家族の生活に安心感を与えている「手触り」を今更ながら感じました。

未来の社会のために、前向きで楽しく

未来の社会でも情報通信・デジタル技術が社会を変え続けていくのは確かでしょう。デジタル社会のデザインという未来を考えた前向きな仕事をしたい方、ワクワクしながら楽しく働きたい方、社会や身近な人の生活をよくする手触りを感じたい方、総務省と一緒に楽しく働きましょう。

PROJECT コンテンツの海外展開

最近では、ドラマをはじめ様々なコンテンツが配信プラットフォームで楽しめますが、海外ドラマなどに比べて、ドラマや地域の情報など日本のコンテンツがネット上に多くありません。そのため、大学教授、プロデューサー、放送・配信事業者から商社まで多くの方に参加頂き、石田さんをはじめ、うちの課や室のみなと一緒に、実写コンテンツ展開力強化官民協議会を立ち上げて、展開策を検討しています。加えて世界に通用するコンテンツが製作できるような支援、クリエイターの人材育成、製作現場の改善を進める他、ドラマなどの日本のコンテンツを配信プラットフォームを活用して海外で配信するプロジェクトを進めています。